

研究発表もうしこみフォーム

氏名：湊 邦生

氏名のローマ字表記：Kunio Minato

所属：高知大学地域協働学部

専門分野：社会学

発表のタイトル：中国からの影響に対するモンゴル国一般市民の意識と関連要因：アジア
ン・バロメータ調査データの分析から

発表要旨：

本研究発表は、モンゴル国（以下「モンゴル」）において、中国からの影響を人々がどのように認知しているのか、またその認知についてどのような要因が関連しているのかについて、アジアン・バロメータ第3回・第4回調査の分析結果を基に報告するものである。

モンゴルでは2000年代に入って以来、中国との関係が拡大している。経済面ではモンゴルからの輸出が対中国一辺倒の状態であり、政治面では2014年に両国関係が全面的戦略的パートナーシップに格上げされている。さらに、ウランバートル市内では中国の援助によって中心部の道路が再整備され、「北京通り」と改称されたほか、中国による一帯一路構想の波及等、モンゴルにおける中国の存在感は拡大している。

一方で、モンゴルにおける反中国意識の浸透はこれまでも繰り返し指摘されており、現在も弱まる兆候はない。反中国意識はモンゴルのナショナリズムと表裏一体の存在とすら言われるものであり、近現代モンゴル社会を理解する上で重要な研究課題の1つである。そのような中で、Bulag [1999]や Billé [2015]が反中国意識とモンゴルにおけるナショナリズムやナショナル・アイデンティティの形成について、人類学的アプローチによる研究を行ってきた一方、発表者自身は2000年代以降のモンゴル社会に焦点を当て、拡大する中国の影響がモンゴルの一般の人々にどのように認知されているかについて、調査データの計量分析に基づく研究に取り組んできた。ただし、それらの研究の後にアジアン・バロメータ第4回調査が実施され、モンゴルのデータについては既に公開されている。このことから、本発表ではそのデータを用いることで、既存研究の議論が現在も適用可能かどうかの検証と、新たな知見の提供を試みる。